

第1章 現代日本の特色と国際化の進展

① 戦後日本の発展

(1) 高度経済成長

(1950)年代後半からおよそ20年間にわたり、日本経済は歴史的にも例を見ない経済発展を遂げた。しかし、1973年の(石油危機)をきっかけに急激な経済成長は終焉した。

(2) 低成長時代

1973年の石油危機をきっかけに急激な経済成長は終わったが、日本は低成長率ながらも安定した経済成長を維持した。この時代に日本は、コンピューター産業、原子力産業、ソフトウェア開発などの知識集約型産業を発達させていった。

(3) バブル経済

(1980)年代後半からおよそ1990年頃まで、日本では株や土地への投資が増加し、価格が実体以上に上昇する傾向が続いた。その後、投資した資金が回収できずに、(不良債権)となり、多くの銀行の倒産が相次いだ。

② 現代日本社会の特色と問題点

(1) 多文化共生社会の実現

情報や経済のグローバル化(Globalization)が進み、日本にも多くの外国のモノやヒトが入ってくるようになった。日本は独自の生活習慣や伝統文化を持っているが、異なる文化を理解し、様々な文化や価値観を持つ人々と、共に協力し合う社会の実現を目指さなければならない。

(2) 情報社会の発達と課題

インターネットや携帯電話の普及により、世界の人々が双方向の情報交換が可能な時代になった。どのような僻地にあっても、ネットワークさえあれば世界の最新の情報を入手できる。このような社会を情報社会とかIT社会(ITとはInformation Technology)という。しかしその反面、ネット犯罪に巻き込まれたり個人情報流出されたりする危険性と向かい合っている。

情報社会で被害者にも加害者にもならないためには、情報リテラシー（情報を正しく使いこなすための様々な能力）や情報モラルを身につけた上で、情報社会を生きていかなければならない。

③ 社会生活

(1) 社会集団

動物は種の保存のために集団を形成するが、人間は種の保存以外の目的のために集団を形成する。そのため、人間が形成する集団を社会集団という。

①基礎的社会集団…社会集団の最小単位で人々の間に自然発生的に成立した集団。家族。

②機能的社会集団…ある一定の目的のために人為的に作られた集団。企業・学校など。

(2) 社会規範

人々の利害関係を調整し、社会集団の秩序を維持するために、様々なルールが作られる。このルールを社会規範という。

①道徳…良心に基づいて自分の行動を律するもの。

②慣習…特定の社会集団の「ならわし」や「しきたり」。「礼儀作法」もこれに属する。

③法…強制力があり、守らない人には「処罰」が与えられる。

(3) ルールの効率と公正と合意

ルールを作る上で大切なことは、目的を達成するために**効率**のよい、多くの人に**公正**なルールになっているかどうかを考えなければならない。そして、人々の**合意**が得られていることが重要です。

4 家族の役割

(1) 家族の役割

愛情と信頼によって結びついた最も基礎的な社会集団であり、人間形成の場であり、扶養する場であり、安らぎの場である。

(2) 家族のかたち

親の職業を世襲することが少なくなった現代では、大家族から核家族への変化など、家族の形態が多様化してきている。また、1955(昭和30)年以降、(**単独世帯**)の割合が増加してきている。

①大家族…世代の違う2組以上の夫婦が同居する家族。直系家族や複合家族も大家族。

②**核家族**…1組の夫婦と未婚の子から成る家族。小家族・夫婦家族ともいう。

(3) 新しい家族関係

戦後、新しく制定された日本国憲法に記されている、「個人の尊厳と両性の本質的平等」に則り民法が改正され、旧民法で定められていた「家制度」は消滅した。

①夫婦平等 (旧民法では夫は妻に対して優越する地位が認められていた。)

②婚姻は本人の合意のみで成立 (旧民法では戸主の同意が必要。)

③親権は父母が共同して保有 (旧民法では父親のみに親権が認められていた。)

④均分相続 (旧民法では長男が全遺産を相続し、配偶者や他の子には相続権が無かった。)

(4) 女性の社会進出

戦後、新しく制定された日本国憲法では、個人の尊重と法の下での平等が謳われ、男女平等の社会の実現に向け様々な取組が進められてきている。

①男女雇用機会均等法…1985年に制定、1997年改正。採用、昇進、教育訓練、退職など、あらゆる雇用管理に関して男女の差別を禁止する法律。

②(**男女共同参画社会基本法**)…1999年制定。男女が対等な構成員として、家庭、地域、職場、政治の場に参画し、個人として能力を生かせることを目指すための法律。

<< 関連語句 >>

- **三種の神器**…歴代の天皇が皇位の印として受け継いだ、八咫鏡(やたのかがみ)・天叢雲劍(あまのむらくものつるぎ)・八咫瓊勾玉(やさかにのまがたま)の三つの宝にちなみ、そろえていけば理想的であることの例えとして用いられる。1950年代の日本の家庭では、白黒テレビ・電気洗濯機・電気冷蔵庫の三つが三種の神器と言われた。

- **3C**…1960年代後半から一般家庭の所有するものとして広まった、カー、カラーテレビ、クーラーの三つをその頭文字から3Cと言われた。

- **石油危機**…1973年、アラブ諸国とイスラエルとの間に起こった第4次中東戦争において、OAPEC(アラブ石油輸出国機構)がイスラエルを支援する国に対して原油の輸出停止を行ない、OPEC(石油輸出国機構)も原油価格の引き上げを行った。そのため、日本など原油を輸入に頼っている国々は大きな経済的打撃を受けた。

- **エネルギー革命**…産業の発達に利用されるエネルギー資源が変わること。日本では、一般的には1960年代に起こった石炭から石油へのエネルギーの転換をいう。

- **マスメディア**…新聞・ラジオ・テレビなどの、情報を媒介する手段のこと。

- **マスコミ**…マス=コミュニケーションの略。マス=「大量」を表す。マスメディアによって大量の情報を人々に伝達すること。

- **ユビキタス社会**…情報がどこにでも存在し、いつでも、どこでも、誰でも、必要とする情報を利用できる社会。

〈〈 参考図書〉〉

『中学社会 公民』（平成24年発行 教育出版）

『チャート式シリーズ 中学公民』（新指導要領準拠版 平成9年発行 数研出版）

『中学総合的研究 社会』（改訂版 平成21年発行 旺文社）

『中学社会 自由自在』（改訂第2刷版 平成25年発行 受験研究社）

『徹底演習テキスト 中学公民』（2013年度用 受験研究社）

『シリウス21 社会 中3』（育伸社）

『中学実力練成テキスト 公民』（文理）

『新中学問題集 公民』（教育開発出版株式会社）